

大館北秋田地域林業成長産業化協議会

グリーン成長構想

令和5年2月



大館北秋田地域
林業成長産業化協議会

目次

第1 地域の概要

- 1 本構想の対象地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 対象地域における現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2 私たちが目指す地域の将来像

- 1 地域の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3 構想の策定について

- 1 「大館北秋田地域林業成長産業化協議会 グリーン成長構想」の策定・・・・・・・・ 7
- 2 構想の策定に当たっての基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 構想の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

- 1 森林資源の適正な管理・利用に向けた取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4 地産外商による木材産業の競争力向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 5 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第5 構想の推進体制

- 1 幹事会等の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 構想に基づく取り組みの検証及び取り組み状況の公表・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 3 産学官連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 4 進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第1 地域の概要

1 本構想の対象地域

秋田県大館市（図-1）

2 対象地域における現状と課題

(1) 森林の状況

対象地域の総面積91,322haのうち森林面積が72,384ha（森林率79%）を占めており、民有林が30,244ha（約42%）、国有林が42,140haと国有林の占める割合が高い地域となっている。

なお、民有林のうち大館市が所有、管理経営を行っている森林面積は2,296haである。

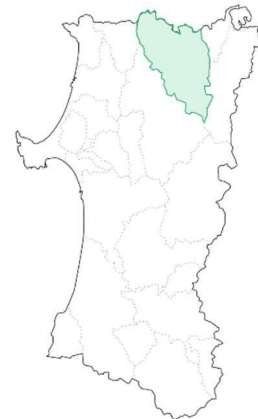


図-1 位置図

(2) 森林・林業・木材産業の現状と課題

平成29年度～令和3年度に林野庁補助事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」に取り組み、産学官連携による森林資源の循環利用やサプライチェーン構築に関する事業を実施。川上から川下までの参画者との連携により素材生産量、再造林面積、苗木生産量等を増加（図-2、図-3）させることができたほか、“忠犬ハチ公”を通じて防災協定を締結している「渋谷区」と連携し、大館市産秋田スギを同区の公共施設「渋谷区子育てネウボラ（図-4）」へ供給し、都市部の木質化に向けた“地産外商”に取り組んだ。

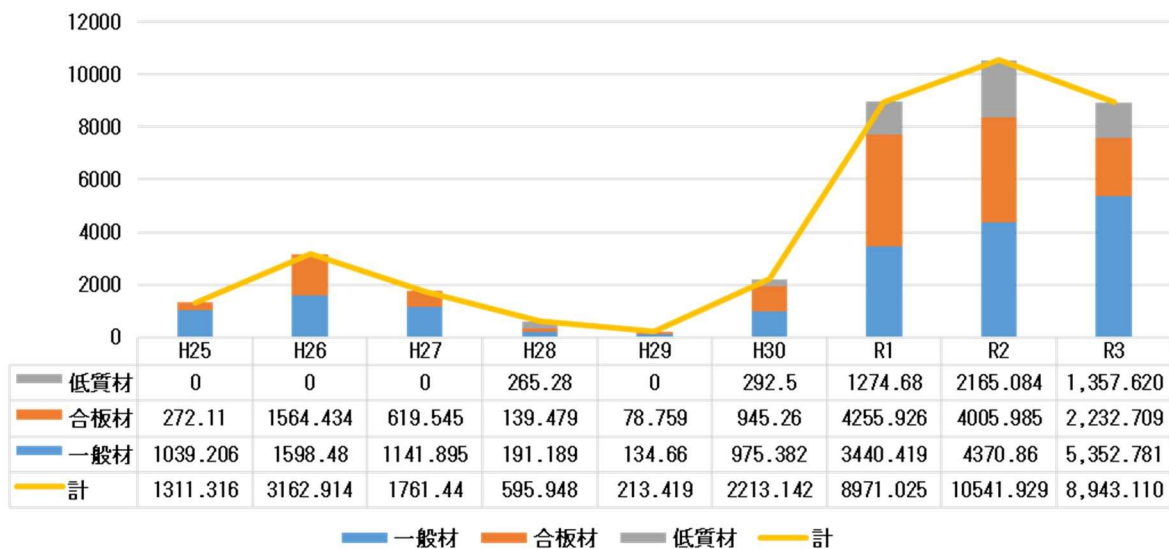


図-2 大館市有林 素材生産量（単位：m³）の推移（H25～R3）

指標	H28	H29	H30	R1	R2	R3
再造林面積（ha）	31	81	127	127	117	93
苗木出荷本数（千本）	500	850	892	924	1032	1264

図-3 大館北秋田地域構想 達成目標進捗管理表より作成

第1 地域の概要



図ー4 渋谷区子育てネウボラ3F（秋田スギフローリング）

令和4年度より、「林業成長産業化地域創出モデル事業」の事業成果を活かした地域の更なる発展、他地域への横展開を図るため、協議会の会員として新たに「住宅事業者」や「建築設計事業者」などが加入し、会員数が令和3年度末の35会員から76会員（令和4年5月末現在）に増加している。

今後については、これまで取り組んできた“地産外商”に加え、地域内の住宅や公共・民間の建築物への地元産材の供給体制構築に向けた“地産地消”に取り組むことで、木材の安定的な需要を創出するとともに、山元への利益還元に寄与し、更なる林業・木材産業の成長産業化を目指している。

このように豊富な森林資源の活用による川上から川下までに至る取り組みを展開しているものの、年々減少の一途を辿っている住宅着工件数の影響だけでなく、新型コロナウイルス感染症、ウッドショック、そして、ロシアのウクライナ侵攻等で世界的な物流システムへ影響が出ており、森林・林業・木材産業を取り巻く状況は厳しい状況下にある。

このような目まぐるしく変化する社会情勢に臨機応変に対応していくため、大館北秋田地域林業成長産業化協議会では、改めて本地域が抱える次の課題を整理し、共有することで川上から川下までの関係者間での連携を強固にするだけでなく、国産材の強靱なサプライチェーン構築に向けた取り組みを継続していく必要がある。

第1 地域の概要

①川上分野の課題

テーマ・キーワード	主な課題
再造林	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足と生産請負事業で余裕がない状況、人の受け入れ態勢が整っていない ・ニホンジカによる樹木の食害対策が必要 ・再造林を進めるための作業の効率化が必要
林道整備	<ul style="list-style-type: none"> ・3級林道以下の道や、田畑の脇や集落の中の細い道を通らなければ木を出せない林地が多くあり、林道の改良があまり進んでいない状況
原木流通	<ul style="list-style-type: none"> ・原木および製品安定供給のための需要と供給の相互理解（1次⇔2次産業）
スマート林業	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関する技術者確保が必要
労働環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力確保のための環境改善が必要
苗木生産	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木生産量増加及び生産効率向上のため、品種改良等が必要

②川中分野の課題

テーマ・キーワード	主な課題
木材加工	<ul style="list-style-type: none"> ・製材所の減少、県産原木が大量に県外移出 ・大径材の活用が進まない
木質バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> ・バークのバイオマス利用が課題 ・小型バイオマスボイラーに対応する準乾燥チップの生産
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ・原木供給体制に即した原木置場、製品安定供給のための半製品置場等自社敷地確保や整備に対して多大な投資となる
需要開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内・外において、継続的な新たな木材需要の開拓
商品開発	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県北地域の素材を県外でも活用してもらえるような製品開発が必要

③川下分野の課題

テーマ・キーワード	主な課題
木材利用	<ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅と公共建築物への地域産材利用量の増加が必要 ・県産の柱はあっても梁はない
低質材活用	<ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスエネルギーの地域内での活用度が低い ・小型バイオマスCHPの知名度が低く、設置件数も少ない
森林活用	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な地域森林の魅力の発信力が必要
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種とコラボできるような人材が必要

第2 私たちが目指す地域の将来像

1 地域の将来像

大館北秋田地域林業成長産業化協議会は、「林業成長産業化地域構想（平成29年度～令和3年度）」において、以下の“地域の関係者で実現する将来像”を設定し、その実現に向けて当該構想に基づく重点プロジェクトを実行してきた。

<地域の関係者で実現する将来像（林業成長産業化地域構想より）>

秋田スギのふるさとである本区域の林業・林産業に関わる事業者が「循環の輪」創造の理念を共有しながら有機的に連携し森林資源の価値最大化と循環を実現している。

また、新植用苗木の安定供給体制に基づく主伐再造林一貫作業システムによる素材生産量の増大と共に、森林の公益的機能の保全と計画的な資源循環により木材価格が上昇し、山元への利益還元が実現している。

秋田スギの主要産地として、当地域特有の裾野の広い木材産業を活かした多面的な商品開発を展開し、森林資源の最大活用を実現するとともに、地産地消型に加えて地産外商型需要を創出することにより、産地としての機能を最大化させ、当地域の木材産業が「秋田スギのふるさと」として県産ブランド価値向上の主役となっている。

これらの川上から川下に至る産業の活性化により新たな雇用を創出し、当地域に林業を軸とした成長産業モデルが実現される。

<重点プロジェクト一覧（林業成長産業化地域構想より）>

分野共通	<ul style="list-style-type: none"> ○参画者協議会の設立・運営 ○林業従事者雇用創造プロジェクト
川上分野	<ul style="list-style-type: none"> ○主伐・再造林一貫作業システム推進プロジェクト ○苗木増産プロジェクト ○森林経営確立に向けた長期ビジョン策定プロジェクト ○伝統的工芸品「大館曲げわっぱ」適材木供給・育成プロジェクト ○森林整備計画推進プロジェクト
川上・川中分野	<ul style="list-style-type: none"> ○森林認証・CoC認証取得プロジェクト ○「あきたの極上品」等秋田スギ利活用プロジェクト
川下分野	<ul style="list-style-type: none"> ○木質バイオマス利用促進プロジェクト ○「循環の輪」プロモーションプロジェクト

第2 私たちが目指す地域の将来像

本構想においては、上記の将来像の実現に向けて取り組んだ重点プロジェクトの取り組み結果や社会情勢の変遷等を踏まえ、新たな地域の将来像を設定するものとする。

(1) 地域のあるべき姿（将来像）について

大館北秋田地域林業成長産業化協議会の目的である、本地域の充実した森林資源の最大活用と資源循環の確立による“森林資源の「循環の輪」の創造”を基本理念とし、令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」に掲げる「森林・林業・木材産業によるグリーン成長」を目指すものとする。

森林の適正な管理とともに、林業・木材産業の“持続性”と“成長”を両立させることで、2030 SDGs（持続可能な開発目標）や2050 カーボンニュートラルを見据えた豊かな社会経済に貢献していることを本地域のあるべき将来の姿とし、次に掲げる各分野の将来像を設定する。

①川上分野の将来像

テーマ	あるべき姿（将来像）
再造林・森林資源	<ul style="list-style-type: none"> ○木材循環システムが確立され、森林資源をより無駄なく高収益を上げられる仕組み（プラットフォーム）が構築されている ○エリートツリーや大苗の生産等により再造林がさらに進み、民有林の再造林率が80%となっている ○針葉樹・広葉樹がバランスよくある山になっている ○地域の森林資源循環に向け官民共同で取組を継続している
林業事業体・従事者	<ul style="list-style-type: none"> ○循環型林業を維持できない林業経営体は皆無となっている ○若者の雇用増だけでなく、林業を起業する若者が増えている
原木流通	○認証材需要の高まりに対して、供給体制ができています
苗木生産	○苗木生産の技術が向上し、生産量が増えている

②川中分野の将来像

テーマ	あるべき姿（将来像）
製品生産体制	<ul style="list-style-type: none"> ○設備の自動化および省力化が図られ、専門製品からオールラウンド（小大径木活用）製品の供給体制整備ができています ○エネルギーの高効率化と利活用によるコスト低減と競争力強化が図られている
就業環境	<ul style="list-style-type: none"> ○従事者の地位向上のため新たな資格創設と評価方法が確立されている ○従事者のダブルワークによる効率化と収入の安定および向上が図られている
産業連携	○付帯産業（機械、部品、車両、目立てなど）の育成と共存共栄が図られている

第2 私たちが目指す地域の将来像

③川下分野の将来像

テーマ	あるべき姿（将来像）
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「木造都市」と「スマートシティ」が融合した都市・地域づくりの”トップランナー”になっている ○地場の木材が地域の公共施設や民間の住宅や店舗などに当たり前に使われ、伐って使って植えるモデルが定着している ○林業によって地域の課題解決を実現させた地域となっている ○林業の教育を受けられる・習熟できるまちとなっている ○まちの景観にも緑が多く、市民が森林や林業に愛着を持つようになっている
エネルギー利用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域内で消費される電気と熱エネルギーの一部を自ら調達出来る地域となっている
社会的評価	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の礎である緑を創造する産業として、林業界は新たな社会的評価を得るまでに至っている



脱炭素社会の実現に向けたイメージ図

第3 構想の策定について

1 「大館北秋田地域林業成長産業化協議会 グリーン成長構想」の策定

本構想は、森林資源の「循環の輪」の創造を目指し、地域の充実した森林資源の最大活用と資源循環の確立をもって林業成長産業化を実現する、という大館北秋田地域林業成長産業化協議会の目的の趣旨に鑑み、産学官連携による「森林・林業・木材産業のグリーン成長」に向けて策定するものである。

2 構想の策定に当たっての基本的考え方

協議会規約に掲げる事業を推進するため、「大館北秋田地域林業成長産業化協議会 グリーン成長構想」を策定し、これに基づく取り組みを体系的に講じていくものとする。

本構想は、国の「森林・林業基本計画」、都道府県の「地域森林計画」及び市町村の「市町村森林整備計画」と調和し、本地域の林業成長産業化に向けた取り組みの基本方向を定めたものである。

3 構想の期間

本構想の実施期間は、「2022（令和4）年度から2031（令和13）年度までの10年間」とする。

なお、期間の途中における成果等を検証し、必要な見直しを行うものとする。



「循環の輪」のイメージ図（出典：林野庁資料）

第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

大館北秋田地域林業成長産業化協議会は、本地域の豊富な森林資源の循環利用による「循環の輪」創造に向けて、次に掲げる取り組みを実施するものとする。

1 森林資源の適正な管理・利用に向けた取り組み

川上から川下までの関係者の連携による山元への確実な利益還元と再生林を推進するとともに、木材の安定供給に資する取り組みや苗木生産体制の強化を図る。



公有林（協定フィールド）の活用



民国連携によるシステム販売



スギコンテナ苗の安定供給



林業専用道整備



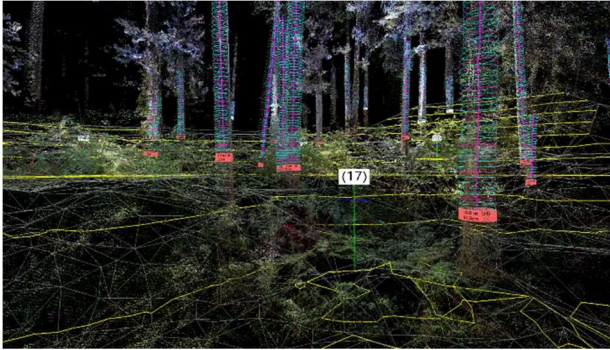
<取り組みの方向性・関連事業など>

- 再生林率を向上させるための仕組みづくり
- 国産材需要の高まりに応えるための森林集約化や木材生産性向上による安定供給化
- 安定的な木材生産を支えるための路網整備の推進
- 再生林率の向上に資するための苗木生産技術の向上と安定生産体制の整備
- 公有林や国有林との連携拡大
- グループ認証等による森林認証林の拡大
- 林業従事者の確保及び人材育成の強化
- 野生鳥獣被害対策の推進
- ナラ枯れ等森林病虫害対策の推進と広葉樹資源の利活用
- 災害（大雨・地震等）発生時の情報共有化及び復旧への協力体制構築

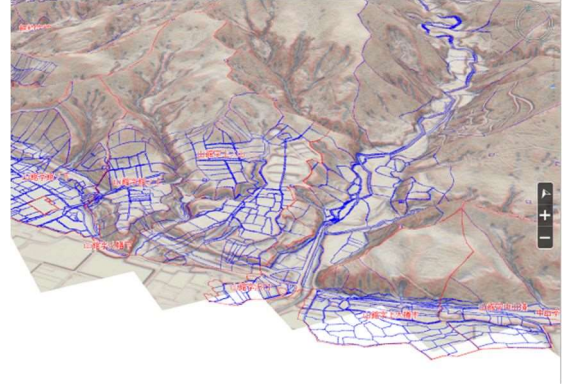
第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

2 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み

ICTの活用による森林情報の高度利用を図るとともに、従来の施業方法等を見直し、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業・木材産業」を目指す取組を展開する。



地上レーザー計測



森林筆界想定図（CS立体図）



苗木運搬ドローン



地拵え機械（山もっとモット）

<取り組みの方向性・関連事業など>

- 森林情報の高度利用に向けたレーザ計測等の推進とデータ利活用
- スマート林業の普及に向けた人材育成とIT産業等との連携
- 森林施業の低コスト化に向けた異業種とのコラボによる機械化や新技術の導入
- ICTを活用した木材の生産流通管理の導入
- エリートツリーや早生樹等による低コスト造林の推進



第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

3 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献

地域の市町村等が策定する木材利用方針等に基づき、地域内の住宅・非住宅への積極的な木材利用を進めるとともに、木質バイオマス等の利用促進により、木材のカスケード利用を図る。



木造公共施設の整備



内装木質化（DLTブース）



小型木質バイオマス発電機



再生複合材（AOM WOOD）

<取り組みの方向性・関連事業など>



- 住宅や非住宅分野での木材利用促進
- 新しい木質部材（CLT、耐火部材等）の活用を提案できる木造設計者育成
- 家具など生活関連分野等での木材利用促進
- 地域内での熱電併給・熱利用の推進

【関連事業】

- 顔の見える木材での快適空間づくり事業（DLTの利活用）
- 「地域内エコシステム」モデル構築事業（木質バイオマス）
- 「秋田スギ講座・ワークショップ」等の地域住民向けの普及活動

第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

4 地産外商による木材産業の競争力向上

今後、秋田県北地域で大型製材所の稼働が予定されており、県産材の需要拡大及び安定供給体制の構築が期待される中、地場の中小製材工場等においては、多様なニーズをくみとり、多品目を供給できる体制整備が求められる。製品の優位性を向上させて、収益性を有する「地場競争力」を高めることを目指す。



豊洲レストラン（東京都江東区）



選手村ビレッジプラザ（東京都中央区）



清水建設(株)東北支店（宮城県仙台市）



居酒屋仙きち（宮城県仙台市）



<取り組みの方向性・関連事業など>

- 都市部自治体・企業との連携体制の構築
- JAS・KD材、集成材等の供給体制の整備、大径材の利活用
- 秋田スギや広葉樹製品の積極的なPR活動
- 「建築物木材利用促進協定」や「森林認証材製品供給」等による木材需要開拓
- 伝統的工芸品等の海外輸出による需要拡大

【関連事業】

- 顔の見える木材での快適空間づくり事業（DLTの利活用）※再掲

第4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

5 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり

伝統的工芸品の「大館曲げわっぱ」や「秋田杉桶樽」など、本地域が培ってきた「木の文化」を活かした観光事業の推進とともに、森林空間を総合的に活用する「森林サービス産業」等の新たな産業を育成することなどで、地域の活性化を図る。



天然秋田スギ林散策



サテライトオフィス（ベニヤマ自然パーク）



大館曲げわっぱ製作体験



田代岳県立自然公園の高層湿原（9合目）



<取り組みの方向性・関連事業など>

- 「AKITASUGI ツーリズム」等による観光客需要の拡大
- ワーケーション等における森林空間活用
- 広葉樹、特用林産物など地域資源の活用
- 地域における農林地の管理・利用を通じた集落の維持活性化
- 森林サービス産業等による所得確保の機会創出や関係人口の拡大
- 木育の推進による人材育成や木材利用の促進

第5 構想の推進体制について

1 幹事会等の開催

本構想に基づく取り組みの実施に当たっては、協議会会員や関係者との連携を図るため、協議会規約に基づく、幹事会、連絡会議、ワーキンググループ及びプロジェクトチームを開催し、各取り組みについて協議を行う機会を設け、各取り組みの検証を行うとともに、必要な措置を講ずるものとする。

2 構想に基づく取り組みの検証及び取り組み状況の公表

本構想に基づく取り組みの成果等については毎年度検証を行うものとする。この検証に当たって、必要に応じてアドバイザー等の意見を聞くものとする。また、その成果等について協議会ホームページ等で公表するものとする。

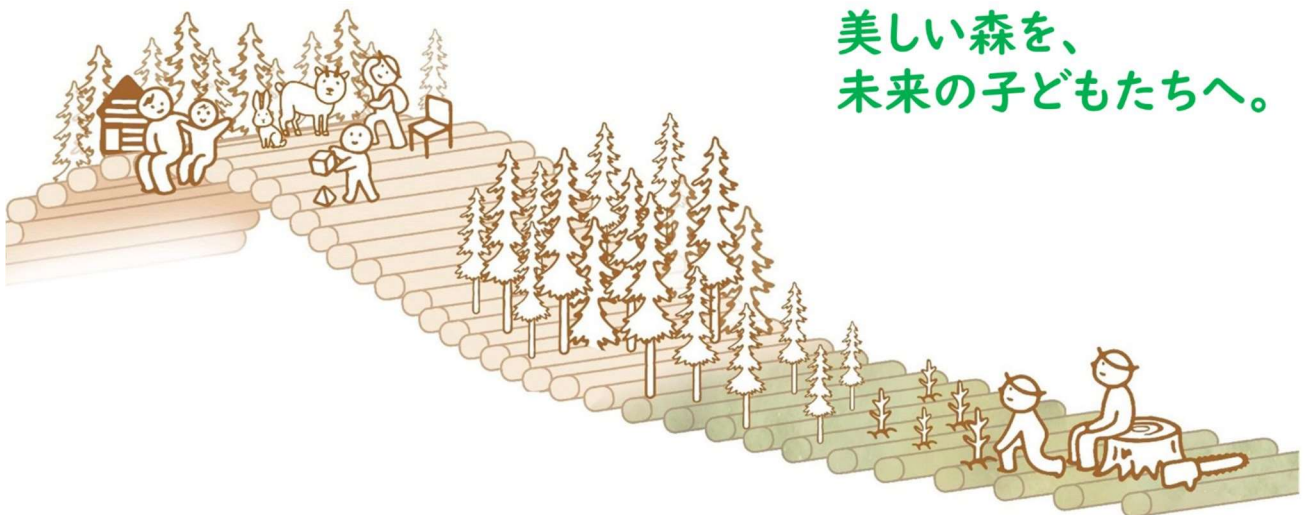
3 産学官連携

本構想に基づく取り組みについての的確に対応するため、研究機関、林業・木材産業関係者および行政機関など各分野の関係者による連携体制を構築するものとする。

4 進捗管理

本構想に基づく取り組みを実施する際には目標から逆算した進捗管理指標を設定し、定期計測を実施して進捗管理するとともに必要に応じ軌道修正しながら目標達成を目指すものとする。

また、幹事会等の開催により各取り組みの進捗状況等の情報共有を図るものとする。



美しい森を、
未来の子どもたちへ。



大館北秋田地域 林業成長産業化協議会

大館北秋田地域林業成長産業化協議会

〒017-8555 秋田県大館市字中城20番地
(大館市産業部林政課 内)

TEL: 0186-43-7076 / FAX: 0186-49-3133

MAIL : mokuzai@city.odate.lg.jp

HP : <https://rinseikyo.jp>



HPはコチラ